

札幌西高校 美術部 3年

全道優秀賞「渴求」



小貫 幸乃



優秀賞「origin」



人間の表情の機微を描きたい

ここに書ききれないエピソードや写真は当別町ホームページ「現代を生きる^{プラス}」でご覧ください。



2月2日から4日にかけて札幌市民ギャラリーで開催された「2024 第14回道展 U21」で優秀賞、10月9日から10日にかけて旭川大雪アリーナで開催された「第58回 全道高等学校美術展・研究大会」で全道優秀賞を受賞した札幌西高校美術部の小貫幸乃さんに話を伺いました。

絵を描きたい

父親が絵を描くのが趣味で、母親が保育士だったため、絵を描くための参考本や画用紙がある環境で育ちました。1歳半頃から絵を描き始め、小学校の図工の授業や自由研究などの制作が好きで、絵をたくさん描いていたのを覚えています。中学では運動部に所属していましたが、高校では自分の絵がどこまで上達するのか、また、大きなキャンバスに絵を描きたいという想いで美術部に所属し、本格的に指導を受け始めました。

人物画の油絵

人間の表情の機微、つまり、細かい違いを描きたかったので、高校で描いた作品は全部人物画です。人物画の魅力は、描く時も見

る時も感情が一番乗りやすい題材で、風景画よりも直に感情を理解できることだと思っています。ただ、自分が伝えたい感情を見ている人に正しく伝わるのが難しくもあり、面白いところでもあります。また、人間の顔のように見慣れているものを描く時に、位置が少しずれるだけで違和感を感じてしまうので、注意して描いています。

油絵は一度間違えても重ね塗りをすれば何度でも塗り直せるので、失敗を恐れずに細部まで描き込むことができます。さらに、平面だけではなく、立体に盛ったり、絵の具に砂を混ぜてポコポコにしたりすることができるので、表現の幅が広くて楽しいです。

作品への想い

「第58回 全道高等学校美術展・研究大会」に出展した作品の題名は「渴求」です。これは、何かに対する強い願望や期待するといった意味に加え、満たされていない状態を伴う気持ちも含まれています。この題名を選んだのは、将来への希望やわずかな焦りを表現するためです。自画像を選んだのは、高校最後の作品だったので、18

歳の今の気持ちを自画像に留めておきたかったからです。作品のこだわりとして、白い服は多くの色を映すことができるので、光の反射などで様々な色に見える現象を強調して描いています。また、細部もきちんと描くため、髪の毛の部分にネイルアートの筆を使ったほか、服のシワの部分も立体を意識しながら描き上げました。また、光と陰を効果的に表現することを特に意識しました。

この作品は今までの中で一番納得のいくもので、その成果として受賞ができたことはとても嬉しく、自信につながりました。

自分が好きなことを仕事に

高校卒業後は、デザイン系の大学に進みたいと思っています。そこで、今まで挑戦したことがなかった立体など、様々な技術を学んで表現できる幅を増やすことと、自分が好きなことを仕事にしたいので、仕事として通用する技術を身につけたいです。

また、道展 U21 では、あと一步のところまで上の賞に届かず悔しい思いをしたので、大学でも絵を描き続けて賞を取りたいです。